第 317 号　・・・めでぃかすとる・・・　平成30年9月15日発行

めでぃかすとる Médicastre

「終　雪」

鶴岡地区医師会　30年 9月号

日時：平成30年7月27日㈮ 19：00～
場所：東京第一ホテル鶴岡 鳳凰の間

「病院勤務医と医師会会員との懇談会　2018」のご報告

勤務医委員会委員長　鈴木　聡

鶴岡地区医師会主催の「病院勤務医と医師会会員との懇談会」は今年で12回目。７月27日㈮、19時から東京第一ホテル鶴岡、鳳凰の間で行われました。参加者は病院勤務医が荘内病院18名（研修医４名含む）、協立病院１名、協立リハビリテーション病院１名、湯田川温泉リハビリテーション病院２名、三井病院１名で合わせて23名（昨年16名）。診療所からの参加18名（昨年18名）と医師会職員６名を加え総勢47名で、昨年に比べ７名の増加でした。

土田兼史会長のご挨拶のあと、第一部の話題提供は、荘内病院内科医長、緩和ケアチームの和泉典子先生から「最期まで自分らしく生きる～本人の意向を尊重するためのアドバンス・ケア・プランニング（ＡＣＰ）～」をテーマに約40分間講演していただきました。内容は、１）日本人にとってのGood deathとは、２）厚労省発表の「人生の最終段階における医療に関する意識調査」の結果について、３）同省の「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」について、４）ＡＣＰについて、５）自分の最期を身近な人と話すきっかけを作るために～地域での活動～、など多岐にわたる内容で、自分自身がどんな最期を迎えたいか、自分事として考え想いをつなぐことの大切さを強調された講演は、聴くものの心をとらえＡＣＰに対する理解を深めるきっかけになったと思われました。

第二部は、三科武荘内病院長の乾杯のご発声で懇親会が開始されました。恒例の壇上での自己紹介タイムでは、勤務医、荘内病院研修医、診療所医師、最後に医師会職員の順にご挨拶があり、加えて病診連携の大切さ、特に地域の中核病院である荘内病院に期待する声や地域連携を進めるうえで顔の見える関係作りの必要性などについて貴重な意見を伺うことができました。

最後は医師会副会長の福原晶子先生の中締めで９時ちょうどに閉会となり、懇親の場は２次会へと移りました。

昨年も本紙面でお願いしましたが、年に１度開催される本会の企画にあたっては、今後もより多くの医師のニーズにこたえるべく広く皆様からのご意見を賜りたいと思います。そして、地域の医療が抱える課題などタイムリーな話題を提供できるよう努めてまいりますので、来年も多数の皆様のご参加を期待しています。

鶴岡准看護学院　学校説明会

日時：平成 30 年 8 月 1 日㈬・2 日㈭ 10：00 ～
場所：鶴岡准看護学院

連日の暑さが続く中、2 日間にわたり鶴岡准看護学院学校説明会を開催しました。

説明会には、鶴岡・酒田以外にも最上地方や村山地方、県外からも参加があり、学生 6 名（中学生 1 名、高校生 5 名）社会人 9 名、保護者 4 名、計24名が参加されました。はじめにスライドを用いながら学校概要やカリキュラム、学校生活など准看護師の資格を得るまでの課程を説明し、その後、施設見学と学内実習体験へ!!　今年度より実習体験をリニューアルし、モデル人形の洗髪コーナー、シミュレーションでの採血コーナー、血圧測定コーナー、沐浴コーナー、授乳コーナーを設け、自由に回れるようにしました。参加者の方だけでなく保護者の方も一緒に体験し、採血コーナーでは恐る恐るでしたが採れるまでチャレンジする人もいました(^^)/　最後は在校生とのフリートークを行い、勉強やテストの事、子育てをしながらの生活や仕事について等々、多くの質問が寄せられ、話も盛り上がり時間が足りないほどでした。

学校説明会後に行ったアンケートでは「説明を聞いて貴校の魅力をたくさん知ることが出来た」「採血や授乳体験をして看護の道に進む実感がわいてきた」「先輩方の話を直接聞けて不安が和らいだ」などの感想が寄せられました。2 年生の協力のもと、学院のことを知っていただく良い機会になりました。今年度は10月13日㈯にも学校説明会を予定しています。受験者と入学者の確保に向け、今後も充実した学校説明会の開催に努めていきたいと思います。

教務課　齋藤　千鶴

第27回　医師会納涼ビアパーティー

日時：平成30年8月3日㈮ 19：00～
場所：グランド エル・サン

去る8月3日㈮、医師会納涼ビアパーティーをグランドエル・サンにて開催いたしました。

今回で27回を迎え、会員・職員総勢295名の方々よりご出席いただきました。

三浦道治先生の開会あいさつをはじめに、土田兼史会長のあいさつ、中目哲平先生の乾杯のご発声とともに、実行委員のクラッカーの音で宴の開始となりました。

はじめに、新人職員による余興では、健康管理センター、湯田川温泉リハビリテーション病院、みずばしょうの順に行われました。仕事の合間をぬって練習した成果を発揮し、ステージを目一杯使用した迫力のあるパフォーマンスが繰り広げられていました。次に行いました大抽選会では、今年は景品を5つのグループ（家電・金券など）に分け、自分の欲しいグループに投票していただく形式にしました。自分の投票したグループの抽選になると、歓喜の声とため息が交錯し、最後にサプライズで登場したテレビの抽選においても大きな歓声があがり、会場は大いに盛り上がりました。

最後に福原晶子副会長より閉会のあいさつをいただき、先生の合図のもと万歳三唱とともに閉会となりました。

このビアパーティーは年に1回、会員の先生方と全施設の職員が一堂に会し、交流できる場となっております。来年もたくさんの方々にご出席いただき、交流を深めていただければ幸いです。

実行委員長　山口　瑞枝

今回初めて医師会納涼ビアパーティーに参加させていただきました。その中で、私達新人職員総勢16名で余興をさせていただきました。今年は人数が多いことから、オニギリマンによる漫才、TWICEさんのTTダンス、E-girlsさんの踊るポンポコリンダンスの3本立てで披露させていただきました。メンバーが大勢いることもあり、なかなか練習の日程が合わず、終業後や休日も集まり練習を重ねました。本番当日が近づくにつれ、どうしたら皆様に楽しんでいただけるか、それぞれ意見を出し合い構成を考える中で、皆で成功させたいという思いが強くなっていきました。本番当日、想像以上の会場の広さと人数の多さに圧倒されましたが、ギリギリまで練習しながら士気を高め出番を待ちました。そして、いよいよ出番となりステージに上がると、会場の皆様からの温かい応援もあり、緊張しながらも全員楽しく笑顔で踊ることができました。今回の目玉として、男性陣がナース服を着用し女装姿で登場すると会場からは歓声が沸き、盛り上げることができたので良かったです。

ビアパーティーを通し、他部署の方々と交流を図ることができ嬉しく思うとともに、これからも新人職員一同さらに精進していきたいと思いますので、宜しくお願いいたします。最後になりますが、このような素晴らしいビアパーティーを企画運営してくださった実行委員の皆様に深く感謝申し上げます。

湯田川温泉リハビリテーション病院
看護部 看護課 第一病棟　齋藤　典子

医師会ニューフェイス　～平成30年9月1日採用～

氏　　名：五十嵐（いがらし）　洋子（ようこ）

所　　属：荘内地区健康管理センター　総務企画課　保健師

趣味・特技：旅行、読書、テニス

ひとこと：一日でも早く仕事を覚え、皆様のお役に立てるよう頑張りたいと思っています。よろしくお願いいたします。

YBCラジオ「ドクターアドバイスで　きょうも元気」ラジオ出演体験記

たんぽぽクリニック　齋藤　高志

３月までは分娩を取り扱っていたので、山形まで行って収録は無理だったのですが、５月に入ると、待ってましたと言わんばかりに早々に出演依頼があり、ハヤッと思いましたが、以前から少し興味もあってＯＫしました。

収録は平日の午後３時の約束でしたので２時30分には到着しましたが、山形放送メディアタワーは大きくりっぱで早くも圧倒されっぱなし、ディレクターの方と初顔合わせしていざ収録のスタジオに案内されて行くと、そこで待っていてくれた方は小川香織アナでまたまた圧倒され、心臓バクバクでしたが、そこはベテランアナ、気持ちを落ち着かせてくれるようなお話をして打ち合わせに入りました。話によればドクターアドバイスでの担当は、年１回あるかどうかしかないとのことでした。さらにディレクターは、小川アナが担当するのは、宝くじに当たったようなものですよ、などと言われ、そうなのかぁ～と思いながら、収録は約２時間30分で終わりました。時間は短くきちんと喋れたかどうか不安でしたが、ツーショット写真まで撮っていただき、大変楽しく、嬉しかったです。このような貴重な体験は、生涯あまりないことと思いますので、ぜひ会員の皆様出演してみてください。

故　今立　元先生のご冥福をお祈り申し上げます。

平成30年8月19日ご逝去　享年91歳

弔　辞

今立元先生。先生は、例年より長く猛暑が続き、ふっと涼しくなった去る8月19日の夕方、忽然として永眠されました。

先生は、体調を崩し施設に移られリハビリを行いながら、穏やかに過ごされているとお聞きしておりましたので、このたびの訃報は余りにも突然なことであり、誠に残念でなりません。私ども会員一同は、また先生と楽しいお話が出来ることを願っておりましたが、本日ここにお別れしなければならないことになったことは、誠に痛切の極みであります。

ご家族、ご親戚の方々におかれましても、驚きとお悲しみはいかばかりかと推察し、ここに弔辞を捧げ、医師会会員並びに職員一同を代表して心からご冥福をお祈り申し上げます。

先生は、新潟市のご出身で、昭和27年3月に新潟医科大学医学科を卒業後、秋田組合病院小児科に2年ほど勤務され、その後昭和31年6月新潟大学医学部小児科教務職員として勤務し、同年10月には文部教官に昇進されました。昭和32年12月には新潟大学医学部助手として昭和34年9月まで勤められ、その間に、ケトージスの実験的研究で学位を取得されました。同年10月から柏崎市刈羽郡総合病院小児科医長として約4年半勤務された後、昭和39年3月に鶴岡市立荘内病院に小児科医長として赴任されました。荘内病院勤務時代は、保健所育児相談の改革、フエニールケトン尿症の検査、山形保健学会の鶴岡開催等に尽力され、また山形小児科医会の役員として多忙な診療の間をぬって多方面にご活躍くださいました。さらに、支払基金の審査員として開業医の立場も深く理解していらっしゃいました。

昭和51年5月、鶴岡市鳥居町に開業された後は、開業医として地域医療活動、特に小児医療活動を積極的に展開され、乳幼児健診の健診医や予防接種対策委員会委員など、鶴岡市の母子保健事業の担い手として、長年にわたり貢献されました。また、当会小児科部会員として平成20年まで、県医師会循環器検診委員会委員として平成22年まで、お務めいただきました。

このように先生の長きにわたるご活躍とご功績に対し、特殊教育の振興で平成10年文部大臣表彰、また、保健衛生関係功労者で平成14年山形県知事表彰、平成23年には県医学校保健功労者表彰を受けられました。

この栄えある表彰の数々は、先生が地域の皆さんから長きにわたり信頼され、絶大な安心感を持たれ、地域医療に取り組まれてきたことを裏づける証しでもありますし、また、それは、ひとえに先生の温厚、かつ、極めて高潔なお人柄が認められた証しでもあると思われます。

また、先生は長きにわたり鶴岡地区医師会の「わかあゆ会」の会員として活躍され、医療者としての経験談、先生風に表現いたしますといわゆる雑魚（ざっこ）釣りなど幅広いご趣味のお話、ご家族に対してのほのぼのとしたお話などを、分かりやすく温かい言葉で綴られ、後輩の育成指導にも努められました。

先生が職業に対して真摯に取り組まれてきた姿勢と多様な趣味を通じて培われた豊かなお人柄に深甚なる敬意を表します。

元先生、これまでの長い間のご教導誠にありがとうございました。

最後に、本日の葬儀に当たり、先生のご逝去を悼み、また、生前の輝かしいご功績とご遺徳を偲び、心からご冥福をお祈り申し上げてお別れの言葉といたします。

今立元先生、安らかにお眠りください。

平成30年8月26日

一般社団法人鶴岡地区医師会
会長　土田　兼史

表　紙

「終　雪」

三浦　二三夫

里では酒田まつりの日、天気に誘われて北に向け車を走らせました。遊佐町の白井新田、鳥海山の撮影スポットにつきました。カメラを向けると前日からの好天で外輪山付近は雪をまとっていました。いわゆる終雪と呼ばれるもので5月20日のことでした。

初冠雪は9月下旬から10月上旬、新聞の紙面にのりますが、終雪の画像のそれは見ることはありません。この日は幸運だったのでしょう。この写真が載るのは9月中旬、北海道の大雪山では8月17日に初雪が観測、話題となりました。今年の初冠雪は9月、それとも10月に入ってからでしょうか。

編　集　後　記

夏が終わろうとしており、ようやく涼しくなってきました。

今年の夏を振り返ってみると、とにかく暑かった印象がありますが、そんな暑い日々の中、さらに熱くなった出来事がありました。甲子園です。

優勝旗が東北に届くのを今年こそはと待ち望みながら毎年見ておりましたが、今年は100回記念大会とのことで、特に注目しておりました。山形県では地元羽黒高校が出場、惜しくも初戦敗退となりましたが、善戦し素晴らしい試合でした。他、東北勢はどうだったかというとやはり何といっても秋田県代表、金足農業高校。大変失礼かもしれませんが予想を上回る大大大健闘でした。3回戦の横浜高校戦での逆転3ランホームラン、準々決勝の近江高校戦でのツーランスクイズ（個人的にはこの試合が一番印象的)、そして準決勝、日大三高戦は投手戦を制し1点差で勝利し決勝へ！

決勝の相手はスーパー最強銀河系軍団、大阪桐蔭高校ですがここまできたら今年こそ東北に優勝旗を、と期待せずにはいられません。診療があり、生で見れないため試合はビデオに録り、仕事が終わってから見ることにし（診療中はお願いだから誰も試合結果を教えないでくれ！と願いながら診察)、無事に誰からも試合結果情報を得ることなく帰って再生（息子は結果を知っていたようで、絶対に言うな！と罵声あげてしまった……)。

結果は皆さんご存知の通りですが、感動は白河の関を超え東北に広がり、さらに全国にも広がりました。来年はどのような甲子園になるのでしょうか？　今から楽しみでなりません。あっ、その前にドラフトがあります。

阪神が当たり年であることを祈ります。

（中目　哲平）

編集委員：渡邊秀平・小野俊孝・三科 武・佐久間正幸・木根淵智子・中目哲平
発 行 所：一般社団法人鶴岡地区医師会　山形県鶴岡市馬場町1－34
TEL 0235－22－0136　FAX 0235－25－0772　E-mail ishikai@tsuruoka-med.jp
ホームページにも掲載しております 鶴岡地区医師会 検索 URL http://www.tsuruoka-med.jp